

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274100524		
法人名	社会福祉法人寿康会		
事業所名	グループホーム高松		
所在地	静岡県駿河区高松2625		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2274100524-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2274100524-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

機能面の低下により歩行できる方がほとんどいなくなり、その分介護の負担が大きくなったが職員間で工夫、情報共有し助け合っている。食事面においても機能低下が著しくペースト食、経腸栄養剤などをプリン状にしたりアイスなどの好物を利用しながら誤嚥しないように注意しながら介助している。今までは外出に力を入れストレスが溜まらない様にしていたがコロナ禍により出来なくなり、その分日頃の食事に力を入れている。出来合いや混ぜるだけのソースを使わず、全て手作りにし残菜率もほとんど無くなり満足していただいている。最後までホームで暮らせる事を目標に職員も頑張っていきたい。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

外出できない閉塞感を払拭したいと、事業所敷地内に職員が設計したバーベキューグリルがお目見えしました。「食べただけ食べて」と焼きたての肉を頬張る笑顔から「大満足」が伝わる一方、平均介護度4と重度化し嚥下状態が悪化した人もいます。誤嚥性肺炎を繰り返すことから食事の姿勢に着目し、障がい者介護も経験豊富な施設長から側臥位で摂取する方法の手ほどきを受けて安定した例もあり、毎日変化する利用者の健康面での課題は、看護師である施設長の迅速な采配で医療に繋げ、前向きに実践する現場職員により最期まで「大好きなものを食べたい」が継続されている事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念をみんなが見える位置に掲示し共有できるようにしている。またホームの指針を定めビジョンを明確にし実践していく。	事業所の行動指針として定めた「職員も入居者も笑顔で暮らせる毎日」を体現すべく和気あいあいと接する中で、無意識のうちに尊厳が脅かされていないかを視点に、職員相互に注意し合うことができています。	理念の共有はできていますが職員一人ひとりが目標をもち、理念の実践に繋がるとなおいと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年同様コロナ禍により行事などが中止になり交流出来ていない。	交流ができない中、町内25組に運営推進会議議事録と写真付き活動報告を回覧し、事業所の取組みを伝えています。日頃の関わりから近隣住民に呼びかけ、洋服を集めて持参してくれたエピソードもあります。	回覧を通して、継続的に事業所の取組みが伝わることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に大きな活動はしていないが、ホームに来る見学や相談は積極的に受け入れるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により開催は控えたが、活動報告やホームの様子今後の予定など提出し地域の方々にも回覧板にて見てもらっている。	書面による会議ですが年6回を目標に掲げ、入居者状況報告、事業所内でのイベント等今後の予定、活動報告を記載した議事録を市介護保険課、地域包括支援センター、町内会へ送付しています。	年6回の運営推進会議が遂行されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方がほとんどで入居費用がギリギリになっている。又担当者とも連絡を取りながら今後も生活を支えられるようにしたい。	市生活支援課とは電話で利用者の様子を伝達して連携しています。議事録について「今後の予定を盛り込む」「写真を交えた活動紹介を」等助言をもらえ、「グループホームかわら版」の発行に活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。また身体拘束廃止委員会の開催により過去の事例や普段の生活の中で無意識に起こりうる身体拘束などを学習し共有している。	3ヶ月毎に委員会を開催して「言葉による拘束がないか」「不穏な利用者が落ち着く声かけは？」など個別検討し、ケア方法を統一しています。新任職員研修では基本姿勢「急がせない」「自尊心を傷つけない」を教示し平穏な生活を守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたることはないと思うが、無意識に言葉で利用者様を傷つけてしまう事も起こり得る為問題があった時は都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	面会も制限され口頭での様子報告だったが大きな問題はなかった。年々経済面で大変になっていると感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明等、出来ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により面会を控えていただいていた為外部からの意見を伺う機会がなかった。	家族の存在があるのは9名のうち1名のみで意見の聴取も困難ですが、成人式を迎える孫が晴れ着披露に来所し、一緒に記念撮影ができました。穏やかになった本人と関係修復ができた証となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日朝の申し送りに施設長が参加することで健康面や問題点は共有することが出来たと思う。	今年度より毎月職員会議を開き全員出席のもと意見交換できています。ホーム長がシフトに入り、都度職員意見に耳を傾け、年に一回の個人面談でじっくり話を聴く機会をもっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部の施設長と連絡を取りながら職員の個々の得意な部分を伸ばし活動などのイベントも計画者を変えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者に寄り添う時などまずは自発的に考え行動してもらい管理者は困ったときに相談にのり解決するようにしている。ビデオ学習やオンライン研修にて個々の力量を高めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流はできなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	長く入居されている方でも新しいスタッフに以前の様子や本人の性格など伝え知ってもらえていると思う。また定期的に要望など聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がほとんどいない為現時点ではほぼないが、相談された時は話を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用が出来るものはしている。その他ホームで安心して過ごせる対応を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護介助が必要な方には充分に出来たと思う。「家族のように」を合言葉に時には職員も励まされ支えられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身寄りがないケースが多く家族がいても遠縁であったり関わりを極力減らしたいという方もいる為負担をかけないことを第一にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状ではない為ないが、過去にはあった為支援には努める。	入居前の情報が乏しい状況でも、暮らしの中から生活習慣や「好きなこと」「大事な人」を探り出し、好みの洋楽CDやDVDを購入しに出かけたり、他事業所で仲が良かった人へ手紙を出したりしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支えあえるような関係は基本的には難しいが嫌だと言いながら世話を焼いたり教えてくれたりしている。個々の気持ちが落ち着ける場所で生活したいスタイルで過ごせてもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状ではそのようなケースはなく看取りをしている為最後の時を穏やかに過ごせることを第一にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に過ごしたいスタイルで過ごしている。食事以外に自由にパン等を食べたい為お小遣いが欲しいと希望があったが生活保護でお金がギリギリであり健康管理の面でも問題があった為食事や活動にて叶える事で納得して貰った。	外出できない閉塞感を払拭したいと、事業所敷地内に職員が設計したバーベキューグリルがお目見えしました。「食べただけ食べて」と焼きたての肉を頬張る写真の笑顔から「大満足」が伝わります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報が少なくご本人の話だけが頼りの中詳しい生活歴までを把握することは難しいが今したい一人一人の生活を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症や機能低下により一人で自由に生活できる方が少なくなった。機能低下が見られる度に対応している。大腿部骨折をしてしまった方が入院から戻ってきてからの介助によりほぼ入院前の生活に戻る事が出来た。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のミーティングを主な情報交換の場にしてきた。またスタッフからのケアのアイデアや日々の情報を大事にして作成している。	毎朝のミーティングは現状把握とミニカンファレンスの場でもあり、骨折、緊急入院・手術から退院後の生活リハビリまで状態変化を見逃さず、職員意見を取り入れ丁寧に見直しされた介護計画を確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残すことは基本にしながら健康面や気になることは日報やホワイトボードでの連絡を徹底している。勤務帯ごとの申し送り情報共有が徹底出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに関しては対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は出来ていないが少しでも豊かな暮らしが出来ることを目標に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療を受けながら緊急時にも対応できている。	24時間対応可能な協力医に全員が変更し、月2回の訪問診療で急変時や看取りまで安心の医療体制があります。看護師である施設長からの上申と早期対応で重症化が防止できています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師の為、機能の低下や状態が悪くなった時にはその場で相談、処置出来る利点を生かし連携出来ている。インシュリン、バルーン交換、浣腸など定期的を実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍により必要以上の面会が叶わなかったが本人の意思も確認しながら病院関係者と情報交換をし問題なく退院できた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りがなかったが、癌の方もいる為今後病状の悪化も考えられる。本人と話し合いながら望むような生活を考えていきたい。また全体的に重度化している為個々にあったケアを考えていきたい。	ベッド上での食事介助となった人が2名おり、障がい者の食事介助にも詳しい施設長の指導により、横向き姿勢での摂食が誤嚥を防止で最期まで「食べたい」意欲のある人に有効であることを体験し、介護力の向上にもつながっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥もある為看護師への連絡を徹底している。繰り返す誤嚥に関しては食事形態の変更や食事の変更、薬の投与で対応している。職員が連携し介助方法など確認、伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。夜間の避難訓練の実施。前回の指摘にあった新任者が参加できるようにし避難経路、避難の際に持つて出るものの用意、共有などをした。	夜間想定訓練では、エレベーターが使えないことを念頭に階下への避難を試みているものの、車いすでの搬送が8名となり、重点課題となっています。備蓄はローリングストックとして一週間分を確保しています。	居室空間が2階であるため一時待避場所への水平避難等、消防隊による救出までの間危険な状態にならない方が講じられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ベッドでの生活が増えおむつ交換などついでを使用しながらプライバシーの確保に努めている。	「自分が嫌だと思ふことをしない」を基本として言葉かけに留意しています。家族のように近い関係性でも尊厳への配慮が欠けていけば注意し、度重なる時には角度を変えて研修で伝え、行動変容を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中々希望通りにはいかないが話を聞くようにしている。 思いがそのまま実現しないまでもなんとか近い形にできないか、みんなで考え出来る限りではあるが実現している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の準備など職員の仕事の流れに合わせてしまう事があるが無理強いせず本人の気持ちを大切に1日を過ごしてほしいと思っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	暑い日でも暑さを感じられないことが多く冬の服のままでも過ごす方もいた。気持ちを大切にしながらも熱中症にならないように注した。散髪等職員がやり経済的に負担にならないようにした。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日手作りの献立にこだわり昼食や夕食はおいしそうなおいがして食欲が出るように思う。ペースト食についても手作りにして市販の物は使っていない。	バーベキュー、パイ生地を使ったクリームシチューポットパイ等、「食」は利用者共通の楽しみとして職員が腕を振るっています。和菓子バイキングは普段動かない人の手が伸びるほど好評でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好も把握できていてその都度嫌いなものや食べにくいものは変更した。夏場は特に水分摂取には気を使った。嚥下が困難になったケースは安全を重視した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療を開始した。口腔ケアについては充分とは言えないが特に夜はしっかりと口腔ケアをして誤嚥などがないようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人にあった排泄の方法を検討しておむつ交換、トイレ誘導をしてきた。出来るだけトイレで排泄するように立てる力を維持してきた。	入院中おむつ、全介助となって落ち込んでいた人に退院後、無理のない範囲で立てる力を取り戻せるよう支援し続け、さらに外出目標を一緒に考えたことで、もとの生活に戻れたという嬉しい事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の定期的な摂取、下剤の服用、官庁の実施等個々に合わせた対策をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の時間で入浴は決められているが体調が悪い日の清拭も徹底できたと思う。立位が難しくなった方の入浴は二人介助で実施している。	週2回をめやすに午後を入浴時間とし、機械浴もありますが職員二人介助によりに個浴で入浴できています。拒否がある場合は無理強いせず、音楽をかけて職員も一緒にリラックスした時間を過ごしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド生活以外の方でも体調や体の変化により体力が落ちてきた場合には積極的に昼寝屋休息をとるようにして長時間の車いす使用は避けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がいるため管理できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中々難しいが洗濯物たたみ、食器の片づけ等出来ることはやってもらうようにしている。本人からの希望は出来るだけかなえられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により利用者様も理解しており「出たい」との声もない。今後の様子を見て検討していきたい。	散歩を敬遠する向きもあり、暖かい日の時間帯を見て玄関で日向ぼっこしたり、職員配置が手厚い時間帯は近所のお寺まで出かけて写真撮影しています。花や景色を楽しむ、降りないドライブにも出かけています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	経済的に厳しく自由に使えるお金はほとんどない人が多い。外にも行けない為持つことはないが必要なものや欲しいものは買える範囲であれば聞いて職員が買いに行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援はしているが、ほとんど利用はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は徹底していて清潔に保っている。本人のこだわりが強い方は、難しい面もあるが体調を崩さないように気を付けている。	壁面は掲示係を中心に季節ごとに利用者と制作し、ひな祭りや花火、バイク、バーベキューなどイベントごとに写真を貼り替えています。食後の床掃除、コンタクトポイントやテーブル等はこまめに薬剤で拭き上げ、衛生管理に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごすことが好きな方が多いので希望に添えるように個々の場所を決めている。歩行が困難になり転倒の危険がある方は一緒に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中いない方は殺風景な部屋が多いが自分で過ごされる方たちは自分たちで好きなものをおいている。	ベッドや家具の配置は本人と相談して決定しています。骨折で身動きが取れなかった時には寝たまま電話が取れるよう工夫しました。早番が清掃や換気、ベッドメイクを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	機能低下により自立できる生活が送れる方が減ったが個々に合わせた環境を作れるようにしている。		